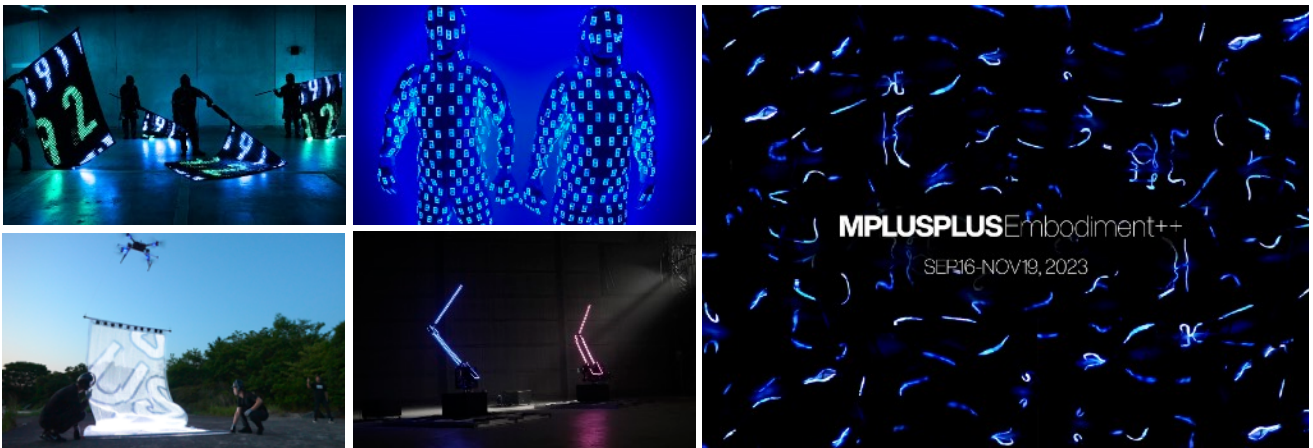


世界初、人間不在の巨大ロボットアームによるパフォーマンス作品を披露

MPLUSPLUS 「Embodiment++」 2023年9月16日（土）よりCCBTにて開催

テクノロジーと身体表現の関係を、MPLUSPLUSの活動から紐解く。
楽曲にはサウンドプロデューサー・ケンモチヒデフミも参加。多様な研究者やアーティストも参加し、テクノロジーによって拡張しゆく未来の「身体性」を考える。



シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] では、2023年9月16日（土）から11月19日（日）まで、音・映像・光によるステージ演出で活躍するMPLUSPLUS（エムプラスプラス）による展覧会「Embodiment++（エンボディメント・プラスプラス）」を開催します。MPLUSPLUSは、これまでに大規模なステージパフォーマンスのLEDを用いた演出や「アメリカズ・ゴット・タレント」でのパフォーマンスにも参加し、代表の藤本実は「光の振付師」として東京2020パラリンピック開会式に参加したことも知られています。

本プログラムでは、MPLUSPLUSが新たに挑戦する、人間を超えるロボットによるパフォーマンス作品を披露します。さらに、これまで開発してきたプロダクト約10種類を初めて総合的に紹介。アート&テクノロジーによる新しい鑑賞体験を提供するとともに、デバイスやシステム等にあるテクノロジーと表現との関係性を体験いただけます。また、会期中には、「テクノロジーによる身体の拡張」を、研究者やアーティストとともに考えるトークも開催します。

開催概要

エムプラスプラス

エンボディメント・プラスプラス

MPLUSPLUS 「Embodiment++」

会期：2023年9月16日（土）～11月19日（日）※月曜休館（祝日の場合は開館、翌平日休館）

入場無料 会場：シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]



公式サイト：https://ccb.tokyo.or.jp/events/mplusplus-embodiment

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

本プレスリリースに掲載の画像は、bit.ly/30iMMg1 よりダウンロードください。



※内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただきますよう、よろしくお申し込み申し上げます。

【広報に関するお問い合わせ】

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] (公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京) 担当：廣田・小林
電話：03-5458-2700 ※13:00～19:00（火～日） Email: ccbt@rekibun.or.jp

1. 見どころ

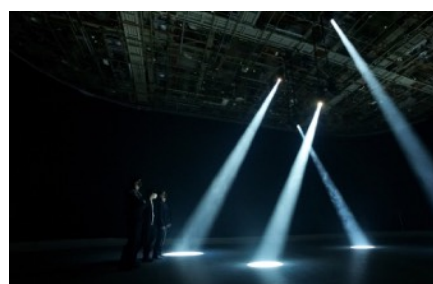
2022年10月に渋谷にオープンした、シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] は、アート、テクノロジー、デザインをテーマにした様々なプログラムを通じ、参加する人々すべてが創造性を発揮する、広く開かれたプラットフォームを目指しています。

テクノロジーとステージパフォーマンスを融合した表現は、日本のメディアアート分野の特徴として世界的に評価されてきました。MPLUSPLUS「Embodiment++」では、こうした表現を探求する次世代のアーティストの活動を通じ、アート&テクノロジーにある、デバイスとシステム等にある技術と、それらを総合芸術へと拓くクリエイティビティを紹介します。

① テクノロジーによって拡張する身体。

実世界、バーチャル世界にある、私たちの未来の「身体性」を問いかける。

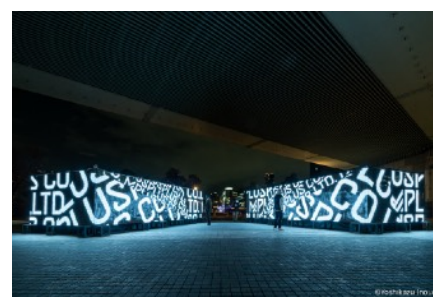
MPLUSPLUS代表の藤本実はガンサーである自身の経験をもって、ウェアラブルコンピューティングの研究で博士工学を取得。大学教員を経て独自のLED装置の開発と展開をMPLUSPLUSとして行ってきました。藤本は「人間の身体をアップデートする」ことを、ステージパフォーマンスの演出等を通じて行ってきました。今回、新たに発表する作品は、藤本がこのためのひとつの手立てとして取り組む、人間を超えるロボットによるインスタレーションです。ロボット、テクノロジーによる「身体性」を私たちは受け止め、かつ超えることができるのか——。AIをはじめとする人間を拡張しゆく知性が顕在化する現在に、本作ではテクノロジー化する新たな「身体性」を提示します。



参考：藤本実 「Humanized Light」 (2021)

② 10周年を迎えるMPLUSPLUSのプロジェクトを総合展示

MPLUSPLUSは、EXILEやAKB48等のLEDを用いたステージ演出や、「アメリカズ・ゴット・タレント」でのパフォーマンス等でも知られています。彼らは、ダンサーやミュージシャンなどの演者のためのツールとしてプロジェクトやシステムを多数開発し、アート&テクノロジーを総合芸術として拓いてきました。本プログラムでは、彼らがこれまで開発してきたプロジェクト約10種類を初めて総合的に紹介します。その一部は来場者のみなさまに触って体験いただけます。



参考：MPLUSPLUS「IMMERSIVE GATE」
(水と光のワンダーナイト in 中之島/2022)
@Yoshikazu Inoue

③ 幅広い研究分野・カルチャーシーンを紹介する関連イベントを開催

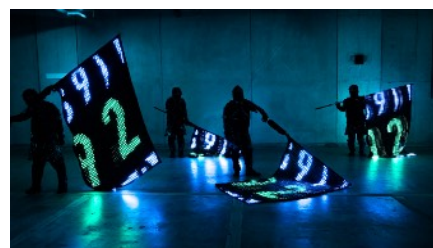
会期中には人間拡張工学の研究者や、メディアアート、デザイン、ダンス等の分野で活動をする様々なアーティストによるトークやワークショップを開催します。また、作品の楽曲提供を手がける、水曜日のカンパネラ・ケンモチヒデフミによるトークも開催。本プログラムを通じ、身体情報学からメディアアート、ダンス、音楽まで幅広い研究分野・カルチャーシーンを一望します。

展示アーティスト

MPLUSPLUS (クリエイティブ・テクノロジスト集団)

演出家、振付師、サウンドクリエイター、ロボティクスエンジニア、ハードウェア/ソフトウェアエンジニアなどの幅広い領域のクリエイターらによるクリエイティブ・チームとして2013年に設立。独自の無線同期の安定性、音・映像・光を駆使した演出ノウハウを武器に、新たな表現や開発を行う。カーネクスト 2023 WORLD BASEBALL CLASSIC™をはじめ、国際的なイベントや企業の企画までステージパフォーマンスに関する多数の総合演出を担当。オリジナルプロジェクトによるパフォーマンスを展開するM++DANCERSのほか、2022年には、オリジナルプロジェクトやノウハウを実装するMPLUSPLUS STAGEも創設。同年には「アメリカズ・ゴット・タレント」にてパフォーマンスを披露。

<https://www.mplpl.com/>



2. 展示作品の紹介

3つのロボットアームがなす、人間不在のパフォーマンス

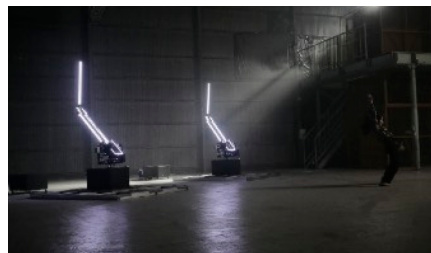
「Unknown Rhythms—Humanized Clock」 (新作)

「Morphing Elegance —Robotic Choreographer」 (2018年/2023年改訂)

「Vitality of Light—Light-emitting Existence」 (新作)

楽曲制作：ケンモチヒデフミ (サウンドプロデューサー、トラックメイカー/水曜日のカンパネラ) など。

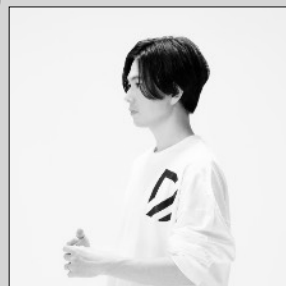
世界初・パフォーマンス専用ロボット3種で構成された人間不在のパフォーマンス/インスタレーション作品。本作には、「動き」「音」「光」の3つの要素の制御システムを研究開発してきた藤本氏が手がけた巨大なロボットアームが登場する。アームのひとつは、1秒間に最大5回転の超高速でパフォーマンス。さらに、天吊りアームには、LED光が付けられており、暗転された空間で来場者は光の動きのみを知覚する。人間の動きを模したシステムを有し、かつ人間よりも高速・高解像度の動きを実現するロボットが放つ光に、私たちは全く新しいパフォーマンス作品を体験する。AIをはじめとするテクノロジーによる知性に注目が集まる昨今、本作では、テクノロジーによる「身体性」を改めてテーマとしている。鑑賞者の感覚とテクノロジーをつなぐインターメディアによる表現は、テクノロジーと人間の感覚が溶け合うことで生まれる新しい「身体性」を提示する。



参考：藤本実 「Robotic Choreographer」 (2018年)

藤本実 (研究者、アーティスト/MPLUSPLUS株式会社代表取締役社長)

1983年生まれ。自身もダンサーとしてパフォーマンスを行い、神戸大学大学院博士課程にてウェアラブルコンピューティングを研究。東京工科大学での教員経験を経て、2013年にMPLUSPLUS株式会社を設立。自らがダンサーであるという特徴を活かし、ライブパフォーマンスにおいて新しい表現を可能とするシステム開発・舞台演出を行っている。東京2020パラリンピック開会式に「光の振付師」として参加。2010年には光によって身体表現を拡張するプロジェクト「Lighting Choreographer」をアルス・エレクトロニカ (オーストリア) で発表。2021年には、個展『MOVIN』を開催。身体拡張を空間に応用した高さ7メートルの巨大新作インスタレーション「Humanized Light」を発表した。<http://www.minorufujimoto.com/>



MPLUSPLUSのプロダクト約10種類を展示、最新作のドローンフラッグまで

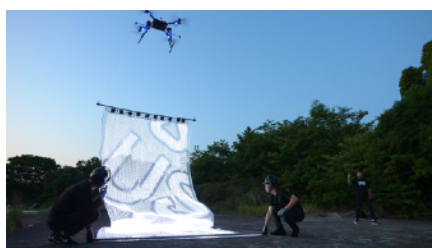
「Quantified Dancer」 (2017年)、「LED POLE 4types」 (2018-19年)、

「LED VISION BOX」 (2021年)、「LED VISION DRONE (Cloth only)」 (2023年) ほか

2013年の設立以来、MPLUSPLUSが10年間にわたって開発・発表してきたオリジナルのプロダクト約10種類を紹介。LED9,000個、450個のデジタル数字による初期のプロダクトから、LED17,280個を搭載した縦6.8m横2.6mの布ディスプレイの最新作までを総合的に展示。実際に来場者が触って体験できるほか、一定時間毎には独自の制御システムが稼働し、会場内の全プロダクトと音楽とが連動するインスタレーションへと変貌する。



「Quantified Dancer」 (2017年)



「LED VISION DRONE」 (2023年)



「LED VISION DRONE」 (2023年)

3. 関連プログラム 参加無料/要事前申込【申込開始：9月16日（土）から】

※プログラム詳細や申込方法はCCBTウェブサイトをご確認ください。

CCBT アート×テックワークショップ

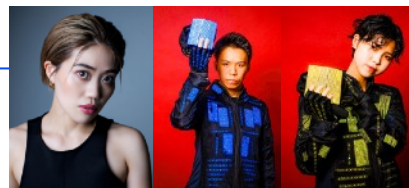
▶ AIMIとM++DANCERSによる新体操×光のダンスワークショップ

10月9日（月・祝）18:30-21:00

対象：小学生以上（新体操やダンスの経験者）*同伴可能

定員：10名（先着順） 講師：AIMI、M++DANCERS

新体操とダンスの要素を取り入れたパフォーマンスを創作するワークショップ。参加者は振付を構想・創作し、最後にはMPLUSPLUSによるLED衣装によるパフォーマーと一緒に踊ります。



▶ レクチャー&ワークショップ「モーションデータをつかったダンス映像制作」

10月14日（土）・15日（日）10:30~12:30 [2日間]

対象：高校生以上 定員：12名（先着順）

講師：土田修平（お茶の水女子大学 文理融合AI・データサイエンスセンター講師）、MPLUSPLUSテクノロジスト

OpenPoseを利用し、スマートフォンなどで人の骨格データを取得し、モーションデータの分析や解析、利用方法をHCI（ヒューマン・コンピュータインタラクション）の研究者の土田修平が解説。2日目にはMPLUSPLUSのテクニカルメンバーも参加し、ステージパフォーマンスや映像演出の効果を学び、実際に映像の製作を行います。



▶ テクノロジー×デザインで街をハックしよう！

11月4日（土）・5日（日）10:30~12:30 [2日間]

対象：中学生～大学生 定員：15名（先着順）

講師：磯山直也（大妻女子大学情報デザイン専攻専任講師）、MPLUSPLUSテクノロジスト

街をより楽しいものにするアイデアを構想し、街の面白さを発見するワークショップ。人の動き等に反応するインタラクティブなテクノロジーの利用方法を学びながら、街でフィールドワークを実施。街の中に「遊び」をもたらす様々なアイデアを、グループワークで構想します。



このほか会期中には展示作品等を解説するトークイベントも多数開催します。

CCBT Meetup

オープニング記念トーク

アート&テクノロジー：次世代に広がる表現とシーン

9月16日（土）19:00-21:00

出演：後藤映則（アーティスト/武蔵野美術大学准教授）、ryo kishi（アーティスト）、藤本実（研究者、アーティスト/MPLUSPLUS）

人間拡張工学によって変わる、経験と表現（仮）

9月29日（金）19:00-21:00

出演：稲見昌彦（東京大学 総長特任補佐・先端科学技術研究センター 副所長/教授）、藤本実（研究者、アーティスト/MPLUSPLUS）

開催概要

MPLUSPLUS Embodiment++

MPLUSPLUS 「Embodiment++」

会期：2023年9月16日（土）～11月19日（日）13:00～19:00 入場無料

※月曜休館（祝日の場合は開館、翌平日休館）

会場：シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

公式サイト：https://ccbt.rekibun.or.jp/events/mplusplus-embodiment

プログラムディレクション：竹川潤一（一般社団法人 MUTEK Japan 理事）

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

